

7. 考察

本研究での調査結果は、関連の指導員研修などのカリキュラムや授業の内容の選定に一つの示唆を与えよう。

まず、「指導技法」、「訓練効果」、「教育方法」、「カリキュラム」なる用語に比較的高い関心を示しており、これらを主眼とした研修内容が今後の検討の対象となろう。

また、実際に教育方法や関連の技法を指導する場合には、何らかの具体的なテーマをもとに展開してゆくものと思われる。たとえば、CAIの論理を説明する際には、制御、電子、機械などの教材の一部をその事例として進めてゆくはずである。すなわち、情報・科学技術にかかわる用語の調査結果は、その事例を選定する際の参考になるものと思われる。特に、「コンピュータシミュレーション」、「パソコン通信」などは興味の大い用語であるが、これらを何らかの形でカリキュラムにとり入れていけば、指導員に興味ある授業となる可能性が高まろう。

また、情報・科学技術に関連した講座タイトル名の調査結果から、当該の情報技術の狭義の知識のほか、将来の技術的展開、人間社会への影響などは興味の対象となろう。